

# 岐阜県小児科研修支援グループ

## Gifu Pediatric-residency Initiatives (GPI)

### 「すべては未来ある子どもたちのために」

岐阜県小児科研修支援グループは、岐阜県小児科研修施設において、小児科専門医取得を目指す若手医師の研修を支援することを目的とし、2016年に設立しました。このグループに関心を持って頂いた皆様を心より歓迎いたします。小児科は未来ある子どもたちの健やかな成長・発達に深く関わってゆける大変やりがいのある分野です。私たちは小児科専門医を目指す皆様に全力で応援させていただきます。

「小児科専門医」取得のためには、勤務実態、診療実績、学術業績などを必要とします。具体的には30症例の経験や、学会発表、ピアレビューを受けた論文の筆頭著者、筆記試験、面接が求められています。また来年度からは、新研修医制度も始まり、各研修病院において症例、実績を効率よく、バランスよく積み重ねることが重要となります。

私たちは円滑に各病院にローテーションをすることだけでなく、これらの課題を無理なく実現できるようにサポートいたします。こうした「小児科医としての基礎固め」を行うことはもちろんのこと、小児科専門分野(subspecialty)の研修や学位取得など皆さんの将来に対しても幅広く支援できるようにしていくことが目標です。そのために、以下のような取り組みを行っていきます。興味がある方は、岐阜大学の学生さんだけでなく、岐阜大学以外の学生さん、岐阜県内で研修されている研修医の先生方など、広くご参加頂ければ幸いです。

### 取り組んでいること

#### ・岐阜小児科研修医セミナー（年に4-5回）

GPIが主催し、研修施設の中堅の先生方が中心となって、毎回、2-3題の講演を行います。国家試験に出るポイントや小児の初期対応、専門分野、その他授業や学会では聞けないような興味深いこと、本音などが聞けます。セミナー終了後は定期的に懇親会も開きますので、様々な施設の先生方と話ができます。

（実績：2016年度は5回、2017年度は4回開催しました）

#### ・小児科新専門医制度の説明会

小児科を目指す学生さん、研修医の先生方のために、新しい研修制度や今後の方向性の相談が出来る説明会を開きます。

#### （主な研修施設）

岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院、大垣市民病院、長良医療センター、県立多治見病院、中濃厚生病院、高山赤十字病院、木澤記念病院、土岐市立総合病院、多治見市民病院、など



（連絡先）岐阜大学小児科 小関道夫 058-230-6386/michioo@gifu-u.ac.jp

### 「小児科ってどんな科ですか？」

小児科は「新生児から成人期まで」に発生する、全ての「病気」に対応する診療科です。そのため、内科の分野に相当する多数の専門分野があります。総合診療内科的な側面はもちろんのこと、新生児、先天異常、感染症、呼吸器、消化器、代謝、肝臓、腎臓、心臓、免疫、アレルギー、膠原病、内分泌、神経、血液腫瘍、救急、心身症などの臓器別分野の他、成長、育児、発達や予防接種など保健医療など、小児科医には多くの役割があります。

小児科医は、身体を構成する各器官を正常に機能するようにするだけでなく、精神的にも健康が維持されるようにこころがけ、こどもが成長し、無事、成人を迎えるように支援することが大きな役目です。このように未来ある子供の成長に直接、関わることができる**魅力的な科**です。

### 「小児科医はどんな人が向いていますか？」

いろいろな分野があるため、バリバリの救急救命医療を選ぶ先生もいれば、腰を落ち着けてゆっくりと診療する心身症を選ぶ先生もいます。ポリクリで生まれたての赤ちゃんの魅力に取りつかれて新生児科を選んだ先生、成人の血液内科を志していたけども、小児血液腫瘍を選んだ先生、自分がアレルギーだからアレルギーを選ぶ先生など、いろいろです。中には、2つ以上の分野を専門とする先生もおられます。このように必ず、自分に合った分野を選択することができます。**小児科医に「向き・不向き」はないと思います！**

### 「重症の子どもを見るのは耐えられないです。子ども好きは小児科に向いていませんか？」

重症の子どもをかわいそうだと思うのは、当然なことです。その子だけでなく、わが身のように思う保護者の方を見ているのが辛いこともあります。そういう重症な子どもや家族のために、いかに良くするか、治すか、家に帰れるようにするかを考え、最後まで全力を尽くすことが、小児科医の役目です。小児期に病気になることは大変なことですが、子どもに罪は無く、治さなくてははいけません。高いモチベーションを保つことができると思います。**ちなみに、子どもはめったに病気で亡くならないので、心配しないでください。**

実際、「子どもが好きだから」、小児科を選んだ先生は多いですし、子ども好きの人は、是非、小児科医になってほしいです。また、そうでない人でも、小児科に入るとあまりの可愛さにみんな子どもが好きになります。慣れてくると、診察は子どもと遊ぶ（逆に遊ばれている？）ようなものだと感じるようになるので、きっと楽しく仕事ができますよ。

### 「小児科は大変だというイメージがあります。実際はどうですか？」

確かに大変なことはあります。点滴、検査をするにしても、一筋縄ではいきませんし、顔を見られるだけで泣かれることも、しばしばです。でも、そのようなことは小児科に限ったことではなく、どの診療科でも**医師というのは、大変で責任のある仕事**です。どの科でも、やりがいを感じたり、楽しいと思えることが、きっと出てきます。

入院した時は、ぐったりとしていた子が、元気になって、退院する姿を見ると、**うれしいです**。「先生、ありがとう」と言ってくれたり、ニコッと笑ってくれた時には、また頑張ろう、という気になりますよ！

### 小児科医はジェネラリストであるだけでなく、興味のある専門分野を選ぶことができます！！

その専門分野を決めるのは、“いつでも”大丈夫です。研修を始めた時に既に決めている先生もいますが、いろいろと経験し、小児科専門医を取得した後くらいに、何となく決める人が多いです。中には決めずに総合小児科医を続ける人だっています。**いろいろな特技を持った小児科医が、助け合い、一人の患者さんを治していくのが、小児科なので、仲が良いですよ！**

《是非、一緒に小児科をやりましょう》